

---

# ある日のお寿司

飴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日のお寿司

### 【Nコード】

N0245N

### 【作者名】

飴

### 【あらすじ】

母子家庭の母と子二人きりの夕食。

**（前書き）**

お題：すめし、寿司太郎、手巻き寿司、魔、星、飴  
という中で書いてみました。

「お母さん！あれ！あれなに！？」

拓哉が夕暮れの空を見上げて叫んだ。

見上げると流れ星が消える瞬間だった。

「あれはね、流れ星っていうの。見えてる間に3回お願いをするとそのお願いが叶うのよ」

「ほんと！？また流れてこないかなあ」

「拓哉は何をお願いするの？」

「うーんとね・・・お寿司がいつぱい食べたい！」

少し心がずきつとした。母子家庭のうちには寿司をおなかいっぱい食べさせてあげられるほどの金銭的余裕はなかった。もうこの子の父親と離婚してから3年ほど経つ。この子は生活に満足してくれているのだろうか。

「わかった。今日はお寿司にしようか！」

「やったー！」

「おうちでお寿司やるんだよ」

「おうちでできるのー？」

「じゃあスーパー寄っていこうか。お荷物持ってくれるかなー？」

「はいー！ボク持つよ！」

満面に笑みを浮かべた息子の顔を眺めている時ほど幸せな時はない。

丁度スーパーではマグロが安かった。あとはきゅうりと卵でもあれば手巻き寿司を作れるし、レトルトのちらし寿司があればちらし寿司も作れる。

荷物は軽い方を一つ持ってもらった。心の優しい子だ。

家に着く拓哉は洗った手を拭きながら訊ねてきた。

「お寿司はどうやって作るの？」

「今日はね、ちらし寿司っていうお寿司と手巻き寿司を作るのよ。」

「ちらし寿司はこの”寿司太郎”っていう具をご飯に混ぜるの。手巻き寿司は海苔で具とご飯を巻いて作るのよ。」

「やったー！お寿司！お寿司！」

純粹に喜んでくれているこの子の顔にどれだけ助けられているだろう。

「なにか手伝う？」

「じゃあ寿司太郎とご飯を混ぜてくれる？しゃもじでご飯を切るように混ぜるとうまくできるよ。」

「わかった！」

私は本当にこの子に助けられて生きている。私の子なのにどうしてこんなに良い子に育ったのか不思議でもある。

あの頃私は若かった。魔が差したとも言える。あんな男にひっかって、引きずり回された挙げ句に妊娠までさせられるなんて。しかし、今は拓哉が居て本当に良かったと思っている。あんな男のDNAだが立派に、素直に育ってくれている。家計はさすがに苦しいし、仕事も忙しく忙殺される日々が続いているが、この子のおかげで心も折れずなんとかやっていけているのだ。

「お母さん！できたよ！」

「うまく混ぜてるかなー？」

酢飯と具材はうまく混ぜていた。頭をなでる。

「よし。あとはお母さんがやるから飴でも舐めて待っててね」

「はい！」

息子とのたまの奮発した夕食。二人でも団らんだ。明日からはまた質素な食卓が待っているが、この子はきっと文句一つ言わず我慢してくれるだろう。いつか我慢のない生活ができることを星に祈る

ばかりだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0245n/>

---

ある日のお寿司

2010年10月28日07時31分発行